令和５年１０月３１日

日立理科クラブ通信

Ｎｏ．２０９

日立理科クラブ

第16回　ひたち水ロケット大会

１０月２８日(土)、池の川陸上競技場を会場にして行われた水ロケット大会について紹介します。

参加者は事前に作成した水ロケットを持って会場を訪れました。受付が終わると、機体に名前を貼り、機体検査し、必要があれば修理していました。機体検査では、理科クラブの担当が外観を見るとともに、中心のズレはないか確認をし、「よくできています」と声をかけていました。不安そうにしていた参加者もここで笑顔を見せます。

受付から機体検査へ

水ロケット

この日の天気は、晴れ間も見えましたが、北西の風が強く、雨雲が近寄ってくるとの予報がありました。水ロケットチームは、試技を行い、風の状況等を考慮して、６気圧、発射角度４５度と設定しました。

当日の参加者は、幼稚園児や小学生などで、飛距離の部に４６名、滞空時間の部に９名がエントリーしました。特に会瀬小学校からは多くの児童が参加してくれました。

開会式では、瀧澤代表理事からは「勝ち負けだけではなく、形はなぜこうなっているのだろう、なぜ飛ぶのだろうと、考えて欲しい」、多くのご来賓を代表して日立市教育委員会折笠教育長からは「水ロケットに夢や希望を乗せて頑張って欲しい」と、あいさつがありました。

瀧澤代表理事

折笠教育長

いよいよ飛距離の部のスタートです。エントリー番号１番から、水ロケットを発射台にセットし、空気を入れていきます。６気圧まで入れるのは、小さいお子さんには難しいので、理科クラブのメンバーが支援しました。会場には「がんばれー」という声がこだましています。

空気を入れる参加者

発射の準備が整うと、「５・４・３・２・１」と会場のみんなでカウントダウンし、「はっしゃ！」。水ロケットは水しぶきを上げて飛び立ち、風に乗ってぐんぐんと飛んでいきます。高く上がったり、回転しながら低く飛行したりして、１００ｍを超える飛行が続出です。

エントリー番号２３番の藤川さんのロケットは、風に乗って見事な大飛行でした。会場からは拍手が起こり、記録は１５３．１０ｍ。表彰式後の優勝のインタビューでは、「たくさん飛んでびっくりしました。また出たいと思います」と話していました。

５・４・３・２・１はっしゃ！

続いて、滞空時間の部です。水ロケットに落下傘を付けて、発射から着地までの滞空時間を競います。落下傘が開くかどうかがポイントです。風が強かったからか、うまく開かないものもありましたが、開いてゆっくりと落ちてくるのを、会場のみんなの目が追っていました。

飛距離の部、滞空時間の部ともに、参加者は自ら製作した水ロケットを広々とした競技場で思いっきり飛ばすことができ、大会の醍醐味を感じていただけたのではないかと思います。大会の結果は次の通りです。

飛距離の部　①藤川咲来さん 153.10m、②工藤透也さん 146.20m、③　高野蒼太さん　144.00m。

滞空時間の部　①米澤駿さん 26.9 秒、②野々山綜亮さん 17.4 秒、③澤畠大地さん 17.2 秒。

それぞれに、①日立市教育長賞、②日立事業所長賞、③日立理科クラブ賞が贈られました。

文責　日立理科クラブ　作間　忍　日立理科クラブ事務所　TEL/FAX　0294-24-3104